

くすり

夕方になるとジスキネジアが出るようになり、自分としては薬が効きすぎと感じます。このような場合はどうしたらよいのでしょうか？ (60代・男性より)

L-Dパを長く飲んでいると、お薬の効きすぎや効果切れで症状が出る場合があります。ジスキネジア(不随意運動)は、質問者様がおっしゃるように、お薬の効きすぎで現れることが多い症状です¹⁾。このような時には、1回に飲むお薬の量を減らし、その代わりに飲む回数を増やすことで、ジスキネジアを避けながらお薬の効果も得られることが多いです²⁾。

また、頻度は少ないのですがお薬の効き始めや、お薬の効果が切れる直前にジスキネジアがでることもあります。このような時には、お薬の種類を変えたり、飲む時間帯を変えたりして、お薬の血液中の濃度が下がる時間帯を作らないようにします³⁾。

このようなお薬の調整は医師が行うので、ご自分の判断で行わず、必ず主治医にご相談ください。

【参考資料】

- 1) 柏原健一(監修): パーキンソン病のことがよくわかる本. 講談社, 東京, pp50-51, 2015.
- 2) 水野美邦: パーキンソン病とともに楽しく生きる. 中外医学社, 東京, pp103-105, 2013.
- 3) 村田美穂(監修): スーパー図解パーキンソン病. 法研, 東京, pp70-71, 2014.

日常生活

パーキンソン病と診断されていますが、コーヒーやお酒は、飲んでも大丈夫でしょうか？ (60代・男性より)

パーキンソン病では、特に食事の制限はありません。お酒もパーキンソン病だからと言って止める必要はありません。コーヒーなどの嗜好品も、摂りすぎでなければ従来通り続けても大丈夫です¹⁾。

ただ、パーキンソン病では睡眠障害がみられることがあります。睡眠障害がある場合には、夕方以降はコーヒー、紅茶を控えた方がよいでしょう²⁾。

【参考資料】

- 1) 前田哲也(柏原健一ほか編): みんなで学ぶパーキンソン病. 南江堂, 東京, p90, 2013.
- 2) 野村哲志(平成28年度神経変性疾患領域における調査研究班編): パーキンソン病の療養の手引き. p72, 2016.
<http://plaza.umin.ac.jp/~neuro2/parkinson.pdf> (2021年11月)

制度

パーキンソン病患者が医療費助成の認定を受ける場合、どのような条件があるのでしょうか？また認定を受けるメリットがありますか？

パーキンソン病は、国の指定難病であるため、重症度が一定以上であれば、難病の医療費助成を受けられます¹⁾。

パーキンソン病と診断され、ホーン&ヤール重症度分類がⅢ度以上で、生活機能障害度が2度以上と認定された患者さんは、難病の医療費助成を受けられます。また、ホーン&ヤール重症度分類がⅡ度以下、生活機能障害度が1度以下の場合でも、医療費の支払いが一定以上の方は助成の対象となります。

助成されるのは、医療費の自己負担分ですが、自己負担分のうちのどこまで助成されるかは、所得や重症度によって変わってきます²⁾。助成を受けるには、申請する必要があります。申請に必要な書類は、各市区町村の相談窓口(保健所または市区町村の保健・福祉課など)にあります。

パーキンソン病になることで、経済的、社会的な様々な不利益が生じます。認定を受けて制度を利用することは、メリットがあると言えるでしょう。

パーキンソン病では、医療費助成以外にも介護や福祉の支援制度が利用できます。詳しいことは、各市区町村の相談窓口にお問い合わせください。

【参考資料】

1)厚生労働省: 難病の方へ向けた医療費助成制度について;

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nanbyou/index.html (2021年11月)

2)村田美穂(監修): スーパー図解パーキンソン病. 法研, 東京, pp148-149, 2014.

